



「知る」から「はじめて」へ

誰にとっても「結果を知る」ということは、それまでの期間ドキドキしたり、ソワソワしたり、ときにはイライラしたりと落ち着かないものです。その落ち着かない気持ちは、健康診断であったり、試験などで経験している方が多いのではないのでしょうか。

さて、誰でも「得意・不得意」があるものですし、持ち合わせた能力というものがありません。十人十色、それぞれの個性があつて当然、というのが前提ですが、時に子どもの発達の特徴や状態、「得意・不得意」に引き合わせるを得ないこともあります。そして、それを知るための方法の一つとして検査があります。

学習や日常生活の様子から、担任の先生から保護者に

検査を受けることを勧めることもありますし、保護者から担任の先生を通して検査を申し込まれることもあります。

検査の結果は、学校では、子ども一人ひとりにとってより良い学習の方法を探り、持てる力を伸ばすため、家庭では、その子どもに応じた「接し方」を知ること、保護者も子どももそれぞれが気持ちよく過ごせるようにするようなものです。

これは、健康診断の結果と同時に、生活の一部について節制や禁止を伝えられたり、これまでになく生活習慣を勧められたりといったように、知ることによって「じゃあ、どうしたらいいのか」「自分とどう付き合えばいいのか」を知る瞬間と似ているのではないかと私は思っています。

一般的な健康診断とは違いますが、発達障がいはその状態や特性を知ったうえで、うまく付き合っていくことが大切だといえます。実際に障がい名や診断は病院で医師がつけるものですが、子どもの状態や特徴を知るために、こういった検査は一つの手立てだといえるでしょう。実際に検査結果を保護者や家族に伝える場面で、半数くらいの方は

「担任の先生に勧められたから」「なんでうちの子が」「最初は勧められてとまどったのだけれど」と結果を聞く前の気持ちを話しされます。「検査はレッテル貼りではない」とことをお伝えし、学校と家庭あはるいは様々な子どもの生活場面で活かせることについて、結果をもとに話し合っていくうちに、多くの保護者の方は「最初は知ったことでショックだったけど、どうしたらいいかわかってよかった」と話されます。

「検査の結果で左右されたくない」という気持ちと「この子のために少しでもできることがあるなら」という気持ちで結果を聞きに来られる方と、保護者の方の心構えは様々です。知らないうちに健康状態が悪化していた、というところと同じとは言えませんが、「早期発見・早期対応」が大事なのは通じるところがあるのではないのでしょうか。

子どもが大きくなるのはあつという間です。その大切な時間をどう過ごすか、「知ることからはじめられること」がたくさんある、ということも心に留めておきたいですね。

第57回 軽井沢町書初展審査結果

書初展の審査会が行われ、町内小・中学校の188点の作品の中から各賞が次のとおり決まりました。(敬称略)

教育委員会賞												町長賞					賞				
酒井	木村	原田	梅沢	中村	原田	伊藤	中嶋	小泉	山田	小山	関原	伊藤	山口	佐藤	川手	佐藤	須崎	羽鳥	鈴木	清水	氏名
理帆	知希	星南	真子	高佑	舞子	千歩	まひる	徳馬	絹乃	珠昇	うたの	久道	弘将	真帆	詩音	秀也	護仁	健太郎	佑莉亜	大翔	
3年	3年	2年	2年	1年	1年	6年	6年	5年	5年	4年	4年	3年	3年	3年	2年	1年	6年	5年	4年	3年	学年
軽井沢中学校						西部小学校	中部小学校	東部小学校	西部小学校	西部小学校	中部小学校	西部小学校	東部小学校	軽井沢中学校		東部小学校	西部小学校	中部小学校			学校名

上記の作品を3月7日(土)から3月11日(水)まで、中央公民館玄関ホールで展示しますので、ご覧ください。

【問い合わせ】 生涯学習係 ☎45-8695